

事業名	博物館活動の充実②（郷土館・森のかがく活動センター）	評価実施者	所属	美術自然史館
		職・氏名	副館長	半井 仁

主要事業の概要	開始年度	根拠法令等				博物館法、文化芸術振興基本法、科学技術基本法ほか	特定財源
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他〔    〕					
	目的	歴史的・文化的遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかがく活動センター」を活性化させることで、新たな経済的・社会的価値を創出し、「創造文化のまち」実現と教育・文化力の向上を図る。郷土館では郷土研究会等と連携し、資料整理や資料の収集・調査を行い、収蔵資料の有効活用を図ることに取り組む。森のかがく活動センターについては、作製した学習教材を積極的に活用し、滝川の豊かな自然を後世に残すための展示及び自然観察会に取り組む。					
事業内容	・郷土館収蔵資料の整理及び資料データのデジタル化(約15,000点 H12より継続事業) ・郷土館めぐり ・移動郷土館「く・る・る de レトロ につぼんの冬」 ・初夏の自然散策 おし花標本をつくる(特別展 鮫島惇一郎・植物画展「北ぐにの花暦」関連事業)						

事業コスト	区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	特記事項
	事業費(A)	1,589	2,963	1,426	1,130	1,706	
	うち一般財源	1,589	2,963	1,426	1,130	1,706	
	人件費(B)	157	135	159	143	257	
	総コスト(A)+(B)	1,746	3,098	1,585	1,273	1,963	※単位:千円

実績と成果	区分		単位	H18	H19	H20	H21	H22	左記以外の21年度の実績・成果	
	事業の実績(アウトプット)	1	郷土資料寄贈件数	件	12	6	4	4		・郷土館めぐり 参加者 35人 ・移動郷土館「く・る・る de レトロ」 来場者数 500人 ・初夏の自然散策 おし花標本をつくる 参加者 21人
		2	郷土館入館者数	人	1,130	1,227	1,120	1,423		
		3	自然観察会実施数	回	2	3	1	1		
	事業の成果(アウトカム)	1	郷土資料収集点数	点	175	55	24	36		
		2	郷土館入館料	円	28,000	83,950	22,450	38,300		
3		森のかがく活動センター入場者数	人	565	745	518	304			

評価項目	点数	判定及び説明・考察					
1 適応性有効性	6	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。			□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		
		②事業の目的に照らして効果的な手法か。			□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		
滝川の歴史や文化を後世に伝えるため、市民の協力を得ながら資料の収集に努めている。H.19に郷土館開館30周年を記念し「昭和のこどもたち展」を開催するにあたり、H.18より昭和に関する資料を募集することにより、数多くの貴重な資料を収集することができた。H.21も36点の資料を収集したが、歳月を経るごとに、貴重な資料を失う可能性も高く、収集すべき資料を明確にし、様々な機会や事業を通じて市民によびかけ、計画的に資料を収集していく必要がある。							
2 目標達成度	7	③目標の水準は適切か。			□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
		④計画通りに目標を達成できたか。			□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		
郷土資料の整理を進め、資料を有効に活用することにより、郷土館への関心を高め、入館者増をめざしているが、H.21は過去4年間で最も入館者数が多かった。H.19にくらべ入館料収入が少ないが、市内小学校による見学者数が多かったため、学習目的での活用が増えたことは評価できる。森のかがく活動センターはH.18～19に自然学習のための教材をつくり、それを活用した事業を展開しながら、身近な自然に関心をもってもらうことにより、利用者増も図っているが、入館者は伸び悩んでいる。施設や教材の有効活用について検討が必要である。							
3 経済性	3	⑤コストは縮減しているか。			□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		
		森のかがく活動センターは、行政パートナー(空知森林サポーターの会)を導入し、効率的な施設の運営に努めている。					
総合評価	合計	16	ランク(A～E)	上記評価を踏まえた事業の課題 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピートアップ ■ 検証 □ 現状維持			
	100点換算	64	C				
		16	25				
		64	100				

【評価点数】

5 : 十分できている 4 : できている 3 : ほぼできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

【総合評価ランク】

- A : 86点以上 優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
- B : 71～85点 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
- C : 56～70点 一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指すことが必要である
- D : 41～55点 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
- E : 40点以下 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

評価項目	点数	判定				点検・評価に関するコメント	
1 適応性有効性	6	①	□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	・この種の施設を、このように評価すること自体が無理があるのではないかと。資料という意味合いが非常に強いと思う。 ・森のかがく活動センターは、自然と市民をつなぐ1つの拠点。評価することが難しい。 ・この種の施設は、続けて行くことが大切である。			
		②	□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
2 目標達成度	7	③	□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		④	□ 5 □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
3 経済性	4	⑤	□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
合計		17	100点換算	68	ランク	C	
		25	/100				